

市民カメラマンフォトロボ

今号は、市民カメラマンの高井孝純さんの写真を紹介します。市ウェブサイトでは、たくさん
の写真を公開しています。ぜひ、ご覧ください。



4/26 かわしま川まつり

かわしま川まつりは、江戸時代から続く、水難防止や五穀豊穡を願う祭り。河川環境楽園内の水園に舟やまを浮かべ、船頭さんが竹の櫂で船を漕ぎます。乗り込んだ若者たちは、笛太鼓のお囃子を演奏しながら宵やみの水園を回遊します。たくさんのお客に見守られた舟やまは、宵の川風を抱きながら優雅に進み、その姿は日本の祭りの風情をたっぷり感じさせてくれました。これも地域の伝統を守り引き継ぐ地元の方々の努力の産物です。

5/8 地元の園児らと木曽川に稚鮎を放流

市では、子どもたちに「川に親しみ、自然の大切さを知るきっかけにしたい」と、木曽川長良川下流漁業協同組合と連携し、地元の園児らと稚鮎の放流を実施しています。

今年は、川島東こども園と前宮そらまちこども園の園児 77 人が参加。園児は、「大きくなって帰ってきてね」などと呼びかけながら、1 人 1 人バケツで放流しました。



5/13 稲羽東小学校で、伝統の茶摘み体験

稲羽東小学校では、昭和 16 年ごろから茶摘みが行われており、80 年以上続く伝統行事となっています。

今年は、全校児童約 120 人が参加。6 年の女子児童は茶娘衣装で、学校外周の茶の木などから新芽を摘み取りました。永井楓乃さんは、「学校伝統の行事に参加できてよかった。収穫したお茶を飲むのが楽しみ」と笑顔を見せました。

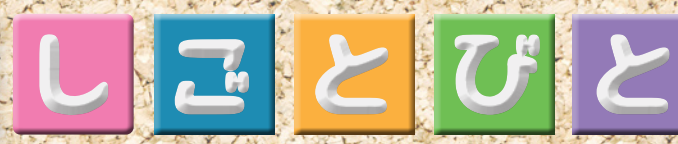
5/15 鵜沼空中歩道で、健康チェック！「えきなかヘルスラボ」

東海中央病院と各務原リハビリテーション病院、市が連携して「えきなかヘルスラボ」を開催。約 30 人が参加し、最新機器「HAJICHECK」を使用した身体機能測定や、認知機能測定、健康相談を実施しました。

参加者は、「足の痛みについて相談しました。日頃の運動習慣が大切だとわかりました」とアドバイスに耳を傾けました。



各務原



各務原で働く「しごとびと」を紹介します。
移住定住ウェブサイト（OFK）では、より詳しい内容がご覧になれます。



Q どんな仕事をしているの？

患者さんが安心して安全に医療を受けられるよう、職員の勉強会を行っています。また、ミスを未然に防ぐために、病院内で「ヒヤリとしたこと」を確認し、対策を講じます。

Q 仕事のやりがい？

患者さんや職員から受けた相談を解決したときや、環境改善によって、より安全な医療につながったと実感できたときにやりがいを感じます。

Q 大切にしていることは？

患者さんにも、職員にも「丁寧に向き合い、確かな判断で、安全を届ける」ことです。そのために、病院内での連携を心がけています。



医療安全管理者

東海中央病院
医療安全管理室

岡田 美香 さん



各務原にんじんをPRする、「八代目生彩弁当」を開発

さわき まこ
澤木 愛虹 さん

愛知県一宮市在住。ドライブが趣味で、景色がきれいだった伊豆がお気に入り。得意料理はチャーハン。

おいしくて、栄養バランスのとれたお弁当を消費者へ

東海学院大学では、地元の特産品「各務原にんじん」をPRするため、マックスバリュ東海と共同で、「各務原にんじんを食べよう！生彩弁当」を開発しています。

毎年 2 回のリニューアルを行い、今回で 8 代目となった生彩弁当。その開発にあたり、同大学医療栄養学科 4 年の澤木愛虹さんが、プロジェクトリーダーを務めました。弁当が完成し、「仲間と作りあげたお弁当を皆さんに届けることができ、うれしいです。とてもよい経験ができました」と笑顔を見せました。

この弁当の特徴は、成人男女が 1 日に必要な野菜摂取量の 1/3 以上を摂取できること。その中で、にんじんをたくさん使うと、味が単調になっ

てしまうことが課題となりました。

そこで、「大人でも楽しめるお弁当にしたい」との思いで、過去のメニューを参考に、鶏肉のソテーににんじんソースをかけることを提案。味だけでなく、食感にも変化を加えました。

さらに、今回は「大人の食育」がコンセプト。規格外のにんじんを使用したり、環境負荷の小さい大豆ミートを使用したり、みんなでアイデアを出し合いました。完成したお弁当を食べた人から「おいしかった」と声をかけられ、澤木さんは喜びをかみしめました。

「人間の体は、食で作られる」。授業で学んだことを胸に、澤木さんは 9 代目の開発に意欲を燃やします。「新しいアイデアを取り入れたい」と、日々の食事から味付けや盛り付けを学んでいます。